

9月の県内景況は、天候不順などの影響により前月に比べ悪化。依然として厳しい状況が続く。

情報連絡員による平成28年9月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は8.6%（前月比-3.3）となっており、「横這い」は37.9%（同+9.5）、「低調」とするところが53.5%（同-6.2）、業界全体の「景況感DI」は-44.8%（同+3.0）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「雇用人員」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業種はなく、食料品製造業、鉄工機械製造業、その他の製造業、サービス業、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、22.4%（前月比+11.9）と増加しております（やや好転の回答13件）（製造業8、非製造業5）。また、変わらないが、55.2%（前月比-8.0）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、22.4%（前月比-3.9）と減少しております。

平成28年9月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率96.7%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-42.86	-14.29	0.00	0.00	-42.86	-14.29	-14.29	0.00	14.29	-42.86	-57.14	-28.57
繊維製品製造	50.00	-50.00	0.00	0.00	0.00	-50.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-50.00
木材木製品製造	50.00	-25.00	0.00	0.00	25.00	-25.00	25.00	-25.00	25.00	25.00	0.00	-50.00
鉄工機械製造	-40.00	-40.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	0.00	-40.00	-20.00	-20.00
その他の製造	28.57	-57.14	0.00	28.57	0.00	-42.86	-14.29	-14.29	-14.29	0.00	-28.57	-28.57
卸売業	-50.00	-25.00	-25.00	-25.00	-25.00	-50.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00
小売業	-62.50	-50.00	50.00	25.00	-12.50	-37.50	-37.50	-12.50	-50.00	-37.50	-37.50	-75.00
商店街	-33.33	-66.67	0.00	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-50.00	0.00	0.00	-16.67	-50.00
サービス業	-14.29	-28.57	14.29	0.00	-28.57	-42.86	0.00	-28.57	14.29	14.29	-14.29	0.00
建設業	0.00	-20.00	0.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00
運輸業	0.00	-33.33	0.00	0.00	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-33.33

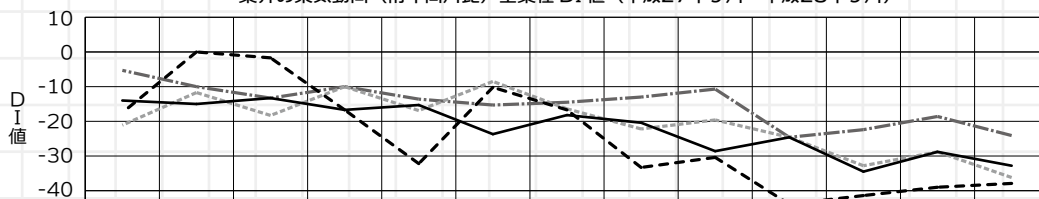
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年9月～平成28年9月）



— 業界の景況
- - - 売上高
... 収益状況
- · - 資金繰り

	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月
業界の景況	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5	-28.8	-32.8
売上高	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4	-39.0	-37.9
収益状況	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8	-28.8	-36.2
資金繰り	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4	-18.6	-24.1

食料品製造業

<漬物>

人材不足が問題となっている。全体的に景気も悪く、売上が厳しい状況。

<味噌醤油>

味噌、醤油の出荷が相変わらず減少しており、売上も停滞。また、味噌の原料米については、価格の著しい高騰など厳しい状況になっている。28年度産の原料は不足になるとの予想がされており、味噌醤油の出荷量は取引先の回復ができていない状況。

<菓子>

十五夜、敬老の日、秋彼岸が終わったが、ハッピーマンデー法が適用されてから休日が増えた影響で、お菓子のトータル需要が下がっているような気がする。

<酒造>

売上は全体的に前年比105%と伸びている。いよいよ平成28年度の酒造りが開始となった。原料米はやや余り気味で天候不順の影響から、質が良くないとの情報もある。

<食品団地>

今月も原油価格が少しずつ上がり始めている。消費については、天候不順による影響が大きく、売上が減少した。今後も原料価格の高騰等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。雇用においてもまだ改善が見られず、特に中途・パート採用は厳しい状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

気候変動に加えて、消費者の動向がつかめず、受注にも影響が出ているので心配である。

木材・木製品製造業

<製材業>

丸太の出材は、雨の影響が多少見られるものの上向いてきている。一方、製材品については、一戸建て住宅の需要がいまひとつであるが、公共木造物件に動きが始めていることから非住宅向けの荷動きは堅調。このため、地元需要に頼る中小工場と県外への需要を持つ大手工場は好調でその差が顕著となってきている。

<外材輸入>

プレカットを中心に秋の需要期に入り、引き合いは増えているものの、製品の販売価格は為替の影響もあり、横ばいで推移している。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

総体的に見て、紙器需要が伸びているという実感がない。福島県にも大勢の観光客が訪れているものの、お土産分野は伸長していない気がする。特に5月の連休明けから7月にかけて仕事量が減少している。紙器の中でも貼箱については少量ながら堅調な反面、印刷紙器については減少傾向を払拭できない。今年の中元期では紙器各社も忙しいところと、そうでないところとの格差が大きくなり2極化の傾向を否めない。

印刷業

<印刷>

各社とも8月に比べ、売上はやや好転しているが、秋口の需要期の力強さは感じられない。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

8月のせと市イベントを始め、9～10月と組合主催のイベントが続くためPRの効果を大いに期待したい。

<碎石>

(県北地区)

- | | | |
|------------|-------|-------|
| 1. 当月売上数量 | 前月比 | ±0% |
| 2. " | 昨年同月比 | 約26%減 |
| 3. 本年度売上数量 | 昨年対比 | 約25%減 |
| 4. 原因・現状 | | |

全般的に公共事業が少なく、出荷につながらなかった。

<生コン>

平成28年9月の組合員生コン出荷数量は、155,779m³と対前年同月比7.7%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比8.3%減、官公需が16.2%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 8.3%減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 29.4%増 市内総合病院移転新築工事、事務所、工場新築工事等

<相双地区> 27.0%増 第一原発事務棟整備建設工事、原発保安対策工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 32.3%減 新福島郵便処理施設、マンション新築工事等

<白河地区> 21.9%減 工場倉庫増築工事等

<いわき地区> 28.2%減 製紙工場、小名浜SS(セメント基地)建設工事等

<会津地区> 7.8%減 マンション、老人福祉施設建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 16.2%減

対前年同月比増加地区

<白河地区> 2.6%増 ひらた清風中校舎新築・屋内運動場、復興公営住宅工事等

<会津地区> 10.7%増 西会津町認定こども園新築工事、道路橋梁改良工事、災害復旧工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> 26.5%減 災害公営住宅、福島大学環境放射能研究所、東北中央道桑折高架橋工事等

<県中地区> 35.5%減 須賀川市役所、開成山屋内水泳場新築工事等

<いわき地区> 14.3%減 港湾災害復旧、市内総合病院新築工事等

<相双地区> 13.6%減 減容化施設、海岸復旧工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比で11%の減、前年同月比では70%減と大きな落ち込みを見せた。前年累計比においても32%の減となり、定修工事以降の工事案件が10月度も前月に続き減少傾向にあり、更なる不安感が残る状況である。

<精密機械>

上半期締月内での受注の増加がみられた。

<漆器>

消費税増税以来、売上の低迷が続いている。特に、贈答品、記念品の動きが極端に悪い。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

9月は長雨の影響もあり、食料品の売上に変化が見られた。飲料品は、清涼飲料水を中心に売上が鈍かった。一方、暑さがそれほどでもなかったため、一足早く売上が伸びた商材もある。建築関係では、天候の関係で工事が長引く傾向にあったため、資材の売上が前年同月比を下回る企業も見受けられた。良きにせよ、悪しきにせよ、9月期は多くの業種で、台風や長雨、気温の低下等の影響を受けることになったが、10月期はその反動が来るのではないかと考えている。

(県北地区)

当組合の販売品目は米穀のみなので、平成27年秋に収穫した米穀を主に秋から初夏にかけ販売している。このため、夏から秋の米穀の収穫時期までは販売数量が激減する。なお、米穀の販売単価は昨年より上がっているが、取扱数量が減ったため売上高は増えない。

<再生資源>

古紙市場は、台風・長雨の天候不順の影響で回収量は更に減少し低調であった。古紙の輸出市況にも底入れ感があり、国内需要の増加を期待するところである。鉄くず市場は、アジア向け輸出市況が軟化に転じ、国内需要の低下もあいまって様子見ムードである。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のショッピングセンター)

顧客流出・人口減少・求人するも労働者不足。明るい情報を探すのに一苦労している。店内改装が終わり心機一転、新たな気持ちで次月に期待したい。

<石油>

前月上昇分の仕切価格が若干転嫁され、小売価格が多少改善された。しかしながら、県内の一部の地域では依然として、仕入価格を下回る廉売も散見される。加えて、天候不良が行楽に影響し、自動車燃料の売上も激減するなど、厳しい経営環境が続いている。

<青果>

前月からの状況は変わらず、単価の高騰は部分的にあるものの入荷数の減少で取扱の増加に繋がらなかった。山菜の取扱も始まったが、昨年に引き続き、放射能の影響で取扱が制限されている。来月においては、会津みしらず柿の取扱が始まるが、春先の冷害の影響で出荷数が激減するものとみている。少しでも取扱が増加する事を期待したい。

<家電>

エアコンは夏場の猛暑等の影響により売上が上昇したものの、依然としてAV機器関係はあまり良くない。

商店街

<福島市>

天候のせい、と言いたいところだが、全体的に消費意欲が減少しているように思われる。昼も夜も活気がなく、7~8月と続いた不況感もここに極まれり、の感。10月からの秋の観光シーズン・下半期のスタートに、盛り返しを期待したい。

<郡山市>

今月は催事が無かった分、やや減少気味の月だった。また、9月は歩行者天国の是非を問う臨時総会が開かれた。投票を行って採決をとったが、僅かな差で歩行者天国の存続が決まった。道路の交通標識はそのまま、

イベント開催時の手続きも今まで通りということとなった。今後はこの結果を踏まえながら商店街のことを考える必要がある。

<南相馬市>

来る11月3日に「復興秋市2016」が地域全体の実行組織を立ち上げ実施される。当日は5,000人の人出が見込まれている。

<会津若松市>

9月は台風などの影響で雨の日が多く、客足が伸びなかった。また、祝日が多い月は売り上げを落とす店舗も多いので、日曜祝日の集客対策は商店街として取り組まなければならない。会津まつりでは去年を上回る人出があった。それに合わせて他団体もイベントを行っていて、賑わった3日間となった。

<いわき市>

天候不順の影響が大きい。今年は台風と9月の平均気温の上昇で秋物の動きが遅くアパレルを中心に大変厳しい。他業種も毎週のような台風の影響で客足が鈍いとのこと。また、昨年度、プレミアム商品券での売上が貢献している店舗はさらに厳しいと嘆いている。

サービス業

<旅館業>

(湯本温泉)

8月は学生が夏休み中であつた為、他県からの観光客は多少なりと増加したが、9月は前月と比べると減少した。

(土湯温泉)

度重なる台風の影響で客足が非常に悪かった。期待していたシルバーウィークも残念な結果になってしまった。

<理容業>

出だしが良かったため期待していたが、売上は伸びなかった。天候の影響もあったよう。特に後半は長雨の影響で客足が落ち、前年度に比べ1割程度低下したという企業もある。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については8月より月実績でほぼ同額の売り上げで推移している。震災関連事業については、10月からスタートとなる。4月、5月で業務発注の変動があり苦慮していたが7月から需要が高まり、3年間の業務契約ができ安定してくると思われる。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。また、雇用の安定化を図っているが、南相馬以南の除染業務に人員を取られる状況がみられる。一般の事業では太刀打ちできない金額の提示で「短期間の業務でも」と転職していくようだ。中高年をターゲットにすることで数名ではあるが人材の確保ができているが、依然として不足気味である。その中で次年度の高卒新卒者説明会があり、新卒者の企業訪問もあることから期待している。

建設業

<建設業>

(県南地区)

建築工事が一段落して、新たな物件が少ない。土木工事の発注が少し多く見えるが、公共工事の全体量としては減少傾向である。民間工事も減少傾向にある。除染は白河市の住宅除染が完了に近く、事業所除染が残っているが年内で完了の見込み。

<管工事>

前月比で給水装置工事申請が増加し、排水設備工事申請が減少。前年同月累計対比では、給水装置工事が減少し、排水設備工事申請は増加している。

<専門工事>

8月の末に上陸した台風10号以降、9月期の天候は落ち着きがなく、例年と比べ日照時間も非常に少ないものとなった。一方で、ここに来て東京オリンピックの開催に向けての活動が表立ってきたのはありがたい話で、先行きの見えなかった仕事の動向について話題が出るようになったり、新しい労働力の確保に向けての動きが見えてくるようになったのは幸いである。

今後は、実際の仕事に直結する話題や動きが出て、沈滞化していたムードにも活性化の目途が立てばよいと感じている。

運輸業

<トラック団地>

今年は当初から燃料が低価格で安定しているため収益面も安定推移している。

<ハイヤータクシー>

昨年と同様に、シルバーウィークによる影響で低調に推移した。